

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
専門学校麻生医療福祉 &観光カレッジ		平成8年3月4日	富田 博之		〒804-0092 福岡県北九州市戸畑区小芝3-3-1 (電話) 093-882-0001		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 麻生塾		昭和26年3月12日	理事長 麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3番83号 (電話) 0948-25-5999		
目的	短大(保育科)卒業に伴う保育士資格、幼稚園教諭二種免許、社会福祉主事任用資格の取得をめざす。実習第一のカリキュラムで現場で即戦力となる幼稚園教諭・保育士を養成するとともに、社会福祉受験資格を取得することにより、子どもから障がい者、高齢者まで福祉全般に対応できる人材を育成する。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
教育・ 社会福祉	教育・社会福祉専門課程		こども福祉科		平成22年文部科学省告示第153号	—	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間		3220	1860	315	660	0
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数		総教員数
120人		38人		3人	25人		28人
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末試験、出席状況、授業態度、確認テスト等の総合評価を行う。評定は、S・A・B・C・Dの5ランクとする。		
長期休み	■夏季:8月4日～8月31日 ■冬季:12月22日～1月8日 ■春季:3月6日～4月4日			卒業・進級条件	ア.指定科目全ての修得 イ.各学年の出席率90%以上 ウ.卒業基準検定の取得 エ.学生としてふさわしい生活態度		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 本人、保護者への電話連絡や面談等を行う			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動等 ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 保育園、幼稚園、障がい者施設等の社会福祉業界 ■就職率 <sup>※1</sup> : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> : 100% ■その他 (平成29年4月1日時点の情報)			主な資格・検定等	幼稚園教諭2種免許 保育士資格 社会福祉主事任用資格 社会福祉士国家試験受験資格		
中途退学の現状	■中途退学者 6名 平成28年4月1日時点において 在学者 55名 平成29年3月31日時点において 在学者 49名 ■中途退学の主な理由 経済的理由、単位未取得、病気療養			中退率	10.9% (平成28年4月1日入学者を含む) (平成29年3月31日卒業者をを含む)		
	■中退防止のための取組 適性検査の実施、検査結果による面談 スクールカウンセラーの配置 クラス担任による定期ガイダンスや三者面談の実施						
ホームページ	<a href="http://www.asojuku.ac.jp/amkc/">http://www.asojuku.ac.jp/amkc/</a>						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

子ども福祉科のカリキュラムは幼稚園教諭二種免許、保育士資格、社会福祉主事任用資格および社会福祉士受験に必要な科目を履修することを基本に編成する。またそれぞれの資格取得には実習が必須とされるため、学校教育法に定める幼稚園、児童福祉法に定める保育園、厚生労働省が定める実習指導者要件を満たした施設等と連携し、現場実習を行う。実習先にいただいた評価や業界で仕事をされている兼任教員との情報交換、卒業生の就職先企業に対しお客様アンケートを実施したりすることにより、学生に不足する、あるいは必要とされる能力を把握する。これらのことによって得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした教育課程編成委員会を置く。

保育・教育・福祉業界における施設や学会関係者の意見や要請等を把握・分析し、カリキュラム全般ならびに授業内容、方法、教員研修等への活用とする位置づけとしている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
増田 吹子	学校法人鹿児島純心女子学園 鹿児島純心女子短期大学講師(日本乳幼児教育学会所属)	2017.4.1～2018.3.31	②
能美 和則	学校法人青山学園 青山幼稚園 理事長・園長	2017.4.1～2018.3.31	③
畠中 康夫	専門学校麻生医療福祉&観光カレッジ 事務長	2017.4.1～2018.3.31	
藤井 成樹	専門学校麻生医療福祉&観光カレッジ こども福祉科 教務リーダー	2017.4.1～2018.3.31	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間開催数)

2回

(開催日時)

第1回 平成28年 6月16日 16:00～17:15

第2回 平成28年11月10日 16:00～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

1. ボランティアは、効果を見直し、参画させる内容を精選する。またボランティアを課す際は、動機付けを行う。2. 大人とのコミュニケーション能力を向上させるために、地域の社会資源を知る・関わりを持つ機会を設定する。との意見をいただき、平成29年度のカリキュラムより、1・2年生のボランティアを「北九州市障害者スポーツ大会参画」、3年生を「ドリームナイトアットガスー」と設定し、授業カリキュラムに組み込んだ。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

幼稚園教諭二種免許、保育士資格および社会福祉士受験に必要な実習を行うため、学校教育法に定める幼稚園、児童福祉法に定める保育園、厚生労働省が定める実習指導者要件を満たした施設等と連携を図る。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実習実施前に実習内容、実習期間等について打ち合わせをする。

実習開始1か月前に、学生が事前オリエンテーションのために施設に訪問する。

実習期間中は、週に1回は巡回をし、学生の情報交換を行い、個々の学生の指導へつなげる。

実習終了後、実習指導者からの評価を踏まえ、担当教員の評価を加味し、成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例		
科目名	科目概要	連携企業等
相談援助実習(1年次分)	社会福祉施設で活躍されている専門職から福祉現場での実情や業務の講義、施設見学などを通し、社会福祉施設の業務の把握、利用者の方への理解を深め、福祉現場に対するイメージ化を図って行くことを目的とし、施設の実態等の知識を現場から学ぶ。	インクルきく、八幡西障害者地域活動センター、浅野工芸舎、戸畑障害者地域活動センター、みどり園、インクル春ヶ丘、小倉南障害者地域活動センター、インクル大里、若松工芸舎 計9施設
相談援助実習(2年次分)	相談援助実習(1年次分)での学びを基礎として、個別支援計画策定の手順を学ぶことを中心に、社会福祉施設での業務の把握、利用者の方への理解を深め、福祉現場に対する理解を深めることを目的とし、施設職員として求められる知識・技術・技能について現場での体験を通して学ぶ。	インクル春ヶ丘、インクルきく、戸畑障害者地域活動センター、浅野工芸舎、小倉南障害者地域活動センター、はばたけ、インクル大里、いきいきらんど、若松工芸舎、八幡西障害者地域活動センター、八幡東工芸舎 計11施設
教育実習Ⅰ	専門教育科目で習得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとする。このねらいを達成するために、見学・観察・参加実習を主とする実習を行う。	浅川幼稚園、八幡みなみ幼稚園、明泉寺幼稚園、ひのまる幼稚園、神理幼稚園、でんき幼稚園、もんじゅ幼稚園、明願寺幼稚園、曾根ひかり幼稚園、上津役幼稚園、緑ヶ丘第三幼稚園、山の手学院幼稚園等 計13園
教育実習Ⅱ	教育実習Ⅰでの学びを基礎として、専門教育科目で習得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとする。このねらいを達成するために、観察・参加実習を主とする実習を行う。	吉田幼稚園、中間東幼稚園、日吉幼稚園、上下津役幼稚園、青山幼稚園、浅川幼稚園、安岡幼稚園、聖ヶ丘幼稚園、むつみ幼稚園、高見幼稚園等 計19園
保育実習Ⅰ(保育所)	これまで学習してきた理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を養成することを目的とする。	本城西保育園、金田保育園、旭ヶ丘保育園、若葉保育所、聖母園、のぞみ保育園、ゆたか保育園、こじか保育園、日豊保育園、さんろくこどもえん等 計15園
保育実習Ⅰ(施設)	これまで学習してきた理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を養成することを目的とする。児童養護施設又は障害者施設における、保育士の役割について理解する。	北九州乳児院、聖小崎ホーム、双葉学園、インクル八千代、門司ヶ関学園、若松ひまわり学園、若松児童ホーム 計7園
保育実習Ⅱ	保育実習を基礎として、保育所での実習を行う。保育所保育の意義を理解し、望ましい子ども観や保育観を形成することを目的とする。保育士として必要な資質・能力・技能を修得するとともに、家庭と地域の生活実態に触れ、それぞれのニーズに合わせた支援を行うために必要な能力を身に付ける。	岩崎保育園、引野保育園、広済寺保育園、さんろくこどもえん、池田保育園、本庄西保育園、おぐまの保育所 計7園
保育実習Ⅲ	施設実習を基礎として、児童福祉施設又は障害者施設での実習を行う。実習先施設の役割や機能について実践を通して理解を深めることを目的とし、保育士の立場から、家庭や地域の生活実態に触れて、家庭支援のための知識・技術・判断力を培うとともに職業倫理等について理解する。	北九州乳児院、うしろだ工房、小倉南障害者地域活動センター、引野ひまわり学園、桑の実工房、そよ風、地域総合支援センターどんぐり 計7施設

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「学校法人麻生塾 教職員研修規程」に基づき、計画的に教員を研修に参加させる。研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・学研教育未来教育株式会社主催 夏の保育実技講習会
- ・社会福祉士養成校協会主催 災害福祉支援活動基礎研修

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・一般社団法人職業教育・キャリア教育財団主催 「未来ノート」によるキャリア教育の間が肩と進め方の研修会
- ・一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会主催 アドラー心理学活用による退学防止策とクラス経営術
- ・麻生塾における学内研修

- 1.情報セキュリティー
- 2.アカデミックハラスメント
- 3.コンプライアンス
- 4.カリキュラム作成指針

- (3) 研修等の計画
- ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 ・一般社団法人日本ソーシャルワーカー教育学校連盟主催 2017年度ソーシャルワーカー教育全国研修大会
- ② 指導力の修得・向上のための研修等  
 ・麻生塾における学内研修  
 1. 情報セキュリティ 2. メンタルヘルス 3. 発達障がい

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の教育方針に基づき、学校運営が適正に行われているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者の参画を得て、包括的・客観的に判定する事で、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また情報を公表する事により開かれた学校作りを行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・建学の精神・法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育人人材像を明文化し、学校構成員で共有し、社会に公表しているか。
(2) 学校運営	・学校の管理・運営体制が確立して、規定通りに運営しているか。
(3) 教育活動	・学科の教育目的、育人人材像に向けたカリキュラムの作成等の取組をしているか。 ・教授学習プロセスの改善および教員の資質の維持や向上への取組をしているか。 ・業界ニーズに対応した付加的教育の取組をしているか ・教員の資質維持や向上にむけた取組をしているか
(4) 学修成果	・各学科の教育目的に向けた達成度および成果を評価・公表しているか。
(5) 学生支援	・学生支援体制を整備し、支援を組織的に行なっているか。 ・卒業生等に対する支援を行なっているか。
(6) 教育環境	・教育の実施体制を整備しているか。 ・教育環境を整備・活用しているか。
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動を適正に行ない、入学選考を公正かつ適切に実施しているか。
(8) 財務	・学校の財務体質は健全であり、財務運営は適切に行なっているか。
(9) 法令等の遵守	・学科の教育目標、育人人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制が確立して改革・改善の為にシステムが構築されているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	・意図的・計画的・組織的に社会活動への取組が推進されているか。
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

平成28年度学校関係者評価委員会にて、学内外実習時の安全対策規定の文書化をご指摘いただいたため、直ちに明文化し整備を行った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
青木 圭子	福岡県立折尾高等学校 校長	2016.4.1～2018.3.31	高等学校教員
安部 久美子	ホテル・プライダル科在校生保護者	2017.4.1～2019.3.31	保護者
井手 國昭	三六まちづくり協議会 会長	2016.4.1～2018.3.31	地域住民
伊藤 美穂	ホテル・プライダル科卒業生	2016.4.1～2018.3.31	卒業生
今仁 優衣	子ども福祉科卒業生	2016.4.1～2018.3.31	卒業生
上田 恵理奈	医療秘書科卒業生	2016.4.1～2018.3.31	卒業生
大郷 直美	医療法人おおごう会 大郷内科クリニック 理事	2016.4.1～2018.3.31	企業・業界関係者
沖田 由美子	レンタルブティック&ウエディング ウィズワタベ 代表取締役	2016.4.1～2018.3.31	企業・業界関係者
北島 武	新門司フェリーサービス株式会社 営業次長	2016.4.1～2018.3.31	企業・業界関係者
城田 浩太郎	介護福祉科卒業生	2016.4.1～2018.3.31	卒業生
竹之内 豊文	株式会社リーガロイヤルホテル小倉 グループサービスチーム担当部長	2016.4.1～2018.3.31	企業・業界関係者
能美 和則	学校法人青山幼稚園 理事長	2016.4.1～2018.3.31	企業・業界関係者
守田 昇平	医療法人おおごう会 介護事業部長	2016.4.1～2018.3.31	企業・業界関係者
疋田 賢吾	医療法人医和基会 戸畑総合病院 医事課長	2016.4.1～2018.3.31	企業・業界関係者
山下 照彦	株式会社スターフライヤー 総務人事部部長	2016.4.1～2018.3.31	企業・業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・8月

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/disclosure/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供する事で、学校運営の透明性を図ると共に、本校に対する理解を深めて頂く事を目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、校訓、沿革、所在地、連絡先、魅力、麻生塾の取り組み
(2) 各学科等の教育	定員、カリキュラム、時間割、取得可能な資格、国家試験、内定実績
(3) 教職員	教員一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職進学サポート
(5) 様々な教育活動・教育環境	年間行事
(6) 学生の生活支援	学生寮、国際交流センター
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、(株)麻生飯塚病院奨学金、日本学生支援機構奨学金制度
(8) 学校の財務	財務情報
(9) 学校評価	自己点検・評価報告書、学校関係者評価委員会報告書
(10) 国際連携の状況	海外教育機関との連携、海外提携校
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/> (学校法人麻生塾ホームページ)

<http://www.asojuku.ac.jp/amkc/> (専門学校麻生医療福祉&観光カレッジホームページ)

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こども福祉科) 平成29年度 ※平成29年度入学生より、子ども福祉科からこども福祉科へ学科名変更															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			健康科学	健康や体力に関する知識や関心を高め、合理的な運動実践を習慣化するための方策を学ぶ。	1前	15		○			○		○		
○			英会話 I	保育園でも使うことができる初歩的な英会話について学ぶ。	1前	15		○			○		○		
○			情報処理入門 I	データと情報の違い、コンピュータの基本的な仕組み・概念について知る。	1後	15		○			○		○		
○			教育課程総論	幼稚園におけるカリキュラムについて学ぶ。	1後	30		○			○		○		
○			造形表現	幼児の造形教育に必要な絵画・立体造形・デザイン・色彩に関する基礎知識と表現技術を習得する。	1通	15				○	○			○	
○			社会福祉	将来「児童の福祉」を推進する保育士に必要な社会福祉の基礎を学ぶ。 (「現代社会と福祉」読み替え)	1後	30		○			○		○		
○			保育原理	乳幼児の特性や保育思想・制度の発達、現在の保育の課題など、基礎的な知識を培い、自分なりの保育観を持つ。	1前	30		○			○		○		
○			社会的養護	用語についての考え方、児童の保護(衣食住)、指導、治療についての理論と実際を専門的に探求する。	1前	30		○			○			○	
○			教育心理学	心理学の基礎を学び、人とのコミュニケーションの方法を学ぶ(心理学理論と心理的支援)読み替え)	1後	15		○			○			○	
○			教育原理	教育の本質と意義を理解し、教育に関する基本的な概念の習得を図る。	1前	30		○			○		○		
○			教育方法論	「教育目的・目標」を達成するために、教育内容を正確に効果的に教え授ける方法について学ぶ。	1後	30		○			○			○	

○		教職概論	教師として教えることの意義、仕事や役割について、歴史・制度・実態などの理解を通し、学ぶ。	1後	30		○		○		○			
○		英会話 I (SC)	保育園でも使うことができる初歩的な英会話について学ぶ。	1前	15		○		○		○			
○		生涯スポーツ (SC)	各種スポーツ技能の向上を中核目標として、スポーツ文化が形成されてきた歴史的・風土的・社会的背景について理解を深める。	1後	15				○		○		○	
○		音楽（器楽・声楽）(SC)	保育者の音楽技術の習得や資質の向上を目指し、器楽（ピアノ）・声楽を学習する。	1後	15		△		○	△	○		○	
○		音楽表現 (SC)	子ども達に豊かな感性や表現力を身に付けさせるために、音楽の楽しさや、喜びを経験し、幼稚園 保育園で音楽活動を実践するために必要な知識、技能を習得する。	1後	15				○	○	△		○	
○		人間関係（指導法）(SC)	人間関係を豊かに育てる始点に加え、幼稚園の父母組織が実際に保育とどう関わっているか分析する。	1後	15		○			○			○	
○		健康（指導法）(SC)	人間の身体や健康、それに関わる環境について理解し、子どもの健康に必要な知識とその指導・援助の技術を習得する。	1後	15		○			○			○	
○		造形表現 (SC)	幼児の造形教育に必要な絵画・立体造形・デザイン・色彩に関する基礎知識と表現技術を習得する。	1後	15				○	○			○	
○		教育心理学 (SC)	心理学を演習を交えて学び、人とのコミュニケーションの取り方について学ぶ。（スクリーング）	1後	15		○			○			○	
○		劇遊び（指導法）(SC)	様々な素材を使った幼児の表現活動を体験し、その楽しさを知るとともに、幼児にとっての表現活動の意味を理解し、保育現場での実践につなげてゆく力を養う。	1後	15		△		○	○			○	
○		情報処理入門 (SC)	コンピュータの発達過程や仕組みを学び、基本的な操作やネットワーク、アプリケーションソフトの利用をマスターする。	1後	15				○		○		○	
○		環境（指導法）(SC)	より良い環境を作ろうとする力を幼児の内面に総合的に育てて行くにはどうすればよいかを学ぶ。	1後	15		○			○			○	
○		言葉（指導法）(SC)	幼児期の言葉の発達段階について学び、話し言葉の獲得期の子どもへの留意点について実践的に学ぶ。	1後	15		○			○			○	
○		現代社会と福祉	社会福祉の基礎について学ぶ。	1通	60		○			○			○	

○		相談援助の理論と方法（1年次分）	相談援助のあり方の基本について学ぶ。	1通	60		○			○								
○		障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者問題とその施策について理解し、障害者問題に対する問題点を考える	1後	30		○			○								○
○		相談援助実習指導（1年次分）	障害者施設での相談援助実習に向けて、実習先の決定、利用者の方との関わり方、実習先での留意点等について学ぶ。	1通	60		○	△		○								○
○		心理学理論と心理的支援	心理学の基礎を学び、人とのコミュニケーションの方法を学ぶ。	1後	30		○			○								○
○		相談援助の基盤と専門職	社会福祉援助活動において活用される専門的援助技術を学ぶ。	1通	60		○			○								○
○		高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者福祉とその施策について理解し、真の長寿社会を築くためにはどうすれば良いかを学ぶ。	1通	60		○			○								○
○		相談援助演習（1年次分）	ロールプレイングを交えながら、社会福祉士としての基礎・応用・実践についての知識・技術を学ぶ。	1通	60				○	○								○
○		相談援助実習（1年次分）	障害者施設での実習で、社会福祉施設における利用者との関わり方や業務の実態について学ぶ。	1後	90					○		○	○	○	○	○	○	○
○		音楽Ⅰ	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。楽典の基礎を学び、譜面の読み方やリズムの取り方を理解する。	1通	90					○	○							○
○		保育実習指導Ⅰ	保育園実習に向けて、実習の基礎を学ぶ。	1通	60		○		△	○								○
○		接遇マナーⅠ	社会人として必要とされるマナーについて学ぶ。	1後	15					○		○						○
○		GCBⅠ	「感謝と思いやり」（依存から自立へ）をテーマに、社会人としてのマナー及びビジネスマナーを学ぶ。	1前	15					○		○						○
○		児童家庭福祉	現在の児童福祉について基本的・体系的に学習し、児童福祉実践者としての知識を身につける。（「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」読み替え）	2前	30					○		○						○
○		子どもの保健Ⅰ①	胎児期から青年期までの心身の発達、小児の主な疾患と特徴を知り、疾病予防のための生活と環境について習得する。	2後	30		○		△	○								○

○		子どもの食と栄養	栄養に関する基礎知識を学び、乳幼児の発達段階に応じた食事や集団給食について学ぶ。	2後	15		○			○									
○		図画工作Ⅱ	幼児が本来持っている豊かなイメージや表現力・想像力を引き出し、造形表現に対して適切な援助を行える能力を養成する。	2通	15					○	○								○
○		家庭支援論	社会的な子育て課程支援が必要となった時代的背景とニーズ、子育て支援体制の現状について学ぶ。	2前	30		○				○								○
○		教育相談	カウンセリングの基礎知識を学び、子供や保護者に対する基本的援助の方法を学ぶ。	2前	30		○				○								○
○		乳幼児心理学	乳幼児を対象とする保育・幼児教育に対して、発達心理学の知見を深める。	2前	15		○				○								○
○		障害児保育	障害児の発達の变化を促す保育的援助について学ぶ。	2前	15		○				○								○
○		日本国憲法	日本国憲法について、誰に向けられたものであり、何を定めているのかを学ぶ。	2前	30		○				○								○
○		保育実習Ⅰ事前事後指導(保育所)(SC)	保育実習の目的の達成をより確かなものにするために、これまでの学びをより実践的な観点から集約し、保育実習に向けた学びを行う。	2後	15		○				○								○
○		保育実習Ⅰ事前事後指導(施設)(SC)	保育実習の目的の達成をより確かなものにするために、これまでの学びをより実践的な観点から集約し、保育実習に向けた学びを行う。	2後	15		○				○								○
○		保育相談支援(SC)	保育士として、子ども達だけではなく保護者に対する支援についても学ぶ。(スクーリング)	2前	15		○				○								○
○		教育実習事前事後指導(SC)	教育実習の目的の達成をより確かなものにするために、これまでの学びをより実践的な観点から集約し、教育実習に向けた学びを行う。	2前	15		○				○								○
○		子どもの食と栄養(SC)	栄養に関する基礎知識を学び、乳幼児の発達段階に応じた食事や集団給食について実技を通して学ぶ。	2後	15		○			△	○								○
○		幼児体育(SC)	幼児体育指導を実践する上で必要な技術と教材作りに関する実践的な知識・技能を修得する。	2後	15						○			○					○
○		音楽Ⅰ(器楽・声楽)(SC)	保育者の音楽技術の習得や資質の向上を目指し、器楽(ピアノ)・声楽を学習する。(スクーリング)	2後	15						○	○		△					○

○		図画工作 (SC)	持っている豊かなイメージや表現力・想像力を引き出し、造形表現に対して適切な援助を行える能力を養成する。	2後	15				○	○											
○		障害児保育 (SC)	障害児の発達的变化を促す保育的援助について学ぶ。	2前	15			○			○									○	
○		乳幼児心理学 (SC)	乳幼児を対象とする保育・幼児教育に対して、発達心理学の知見を深める。	2前	15			○		△	○									○	
○		児童文化 (SC)	子どもの遊びの重要性を認識し、様々な児童文化について把握し、保育現場で実践的な指導のあり方について学ぶ。	2後	15				○			○								○	
○		社会的養護内容 (SC)	各種児童施設における目的と機能、用語プログラムの展開、児童処遇の実際を学ぶ。	2後	15				○				○								○
○		保育内容総論 (SC)	遊びと生活を通して指導する保育の実際と保育の全体的な構造を学ぶ。	2後	15				○				○								○
○		教育実習 I	幼稚園での実習を行う。	2前	80						○			○		○	○	○	○	○	○
○		保育実習 I (保育所)	保育所での実習を行う。	2後	80						○				○		○	○	○	○	○
○		児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	現在の児童福祉について基本的・体系的に学習し、児童福祉実践者としての知識を身につける。	2前	30				○					○							○
○		相談援助の理論と方法 (2年次分)	相談援助のあり方の基本について学ぶ。	2通	60				○						○						○
○		福祉サービスの組織と経営	顧客満足から顧客感動へ。利用者本意の福祉サービス提供のあり方について学ぶ。	2後	30				○						○						○
○		相談援助実習指導 (2年次分)	障害者施設の実習に向け、個別支援計画のあり方、作成方法などを学ぶ。	2前	30				○		△				○						○
○		相談援助演習 (2年次分)	ロールプレイングを交えながら、社会福祉士としての基礎・応用・実践についての知識・技術を学ぶ。	2通	60						○				○						○
○		地域福祉の理論と方法	今後ますます重要視される、コミュニティワークなど地域福祉のあり方について学ぶ。	2通	60				○							○					○

○		低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得者の方が社会的に自立して生活できるための生活保護制度について学ぶ。	2後	30		○		○									
○		権利擁護と成年後見制度	権利擁護制度・成年後見制度について、福祉を必要としている人の人権等を交えて学ぶ。	2前	30		○		○									
○		相談援助実習(2年次分)	障害者施設での実習で、主に個別支援計画の作成など、利用者本意のサービスのあり方について学ぶ。	2前	90				○		○	○	○	○	○			
○		音楽Ⅱ	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。楽典の基礎を学び、譜面の読み方やリズムの取り方を理解する。	2通	90				○	○								○
○		パソコン実習	クラス便りや献立表、住所録が作れる操作を身に付ける。	2通	45				○		○							○
○		GCBⅡ	「志」（自立から相互依存へ）をテーマに、社会人としてのマナー及びビジネスマナーを学ぶ。	2後	15				○		○							○
○		教育実習指導	幼稚園実習に向けた指導を行う。	2通	60		○		△		○							○
○		児童文化	子どもの遊びの重要性を認識し、様々な児童文化について把握し、保育現場で実践的な指導のあり方について学ぶ。	3後	15		○				○							○
○		子どもの保健Ⅰ②	胎児期から青年期までの心身の発達、小児の主な疾患と特徴を知り、疾病予防のための生活と環境について習得する。	3前	30		○				○							○
○		発達心理学	人間は障害発達であることを基本において、乳幼児・児童・青年・高齢者までの心理について考える。	3前	30		○				○							○
○		保育・教育実践演習	保育現場で活用できることについてテーマを決め、研究し、知識と技術の向上を図る。（卒業研究に読み替え）	3後	15				○		○		△		○			
○		乳児保育	未満児の保育について、制度と現状、発達課題、保育内容、保育実践方法を学習し知識と技能の基礎を身につける。	3前	15		○				○							○
○		子どもの保健Ⅱ(SC)	子どもの保健Ⅰを基礎にさらに知識を深める。	3前	15		○			△		○						○
○		言語表現(SC)	乳幼児期の言葉の発達段階について学び、話し言葉の獲得期の子どもへの留意点について実践的に学ぶ。	3前	15		○			△		○						○

○		乳児保育(SC)	未満児の保育について、制度と現状、発達課題、保育内容、保育実践方法を学習し知識と技能の基礎を身につける。	3 後	15		○		○	○								
	○	保育実習事前事後指導Ⅱ(SC)	児童養護施設等での実習前後の指導を行う。（「保育実習事前事後指導Ⅲ」と選択）	3 前	15		○		○	○								
	○	保育実習事前事後指導Ⅲ(SC)	保育園での実習（2回目）前後の指導を行う。（「保育実習事前事後指導Ⅲ」と選択）	3 前	15		○		○	○								
○		相談援助(SC)	保育士を目指す者に必要とされる社会福祉援助活動・技術の基礎を習得する。（スクリング）	3 前	15		○		○									○
○		保育・教育実践演習(SC)	保育現場で活用できることについてテーマを決め、研究し、知識と技術の向上を図る。（スクリング）	3 後	15			○	○	△	○							
○		保育実習Ⅰ（施設）	児童養護施設（保育園以外の児童福祉施設）等での実習を行う。	3 前	80				○	○	○	○	○	○				
	○	保育実習Ⅱ	保育園での実習を行う。（保育実習Ⅲとの選択）	3 後	80				○	○	○	○	○	○				
	○	保育実習Ⅲ	保育園以外の児童福祉施設での実習を行う（保育実習Ⅱとの選択）	3 後	80				○	○	○	○	○	○				
○		教育実習Ⅱ	幼稚園での実習を行う。	3 前	80				○	○	○	○	○	○				
○		福祉行財政と福祉計画	福祉についての行政サービス・福祉計画について学ぶ。	3 前	30		○			○								○
○		相談援助演習（3年次分）	ロールプレイングを交えながら、社会福祉士としての基礎・応用・実践についての知識・技術を学ぶ。	3 後	30				○	○								○
○		社会保障	我が国の医療、介護、年金、労働保険な社会保障の各制度の基本的な仕組みを理解する。	3 通	60		○			○								○
○		人体の構造と機能及び疾病	人体の構造及び疾病について学ぶ。	3 前	30		○			○								○
○		社会調査の基礎	社会調査の意義と目的及び方法の概要、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報について、量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。	3 前	30		○			○								○

○		保健医療サービス	保健医療に関する制度やサービス体系を理解し、保健医療と福祉の包括的支援のために必要な連携・協働についての知識を習得する。	3 後	30		○		○		○	
○		卒業研究	人形劇・オペレッタ製作の理論・実技について学ぶ。また実際に製作し、発表する。	3 通	60		△		○	○	△	○
○		音楽Ⅲ	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。楽典の基礎を学び、譜面の読み方やリズムの取り方を理解する。	3 通	90				○	○		○
○		施設実習指導	施設実習に向けた指導を行う。	3 通	60		○		△	○		○
○		接遇マナーⅡ	社会人として必要とされるマナーについて学ぶ。	3 通	15			○		○		○
合計		98 科目		3220単位時間( 単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
ア. 当該学科の所定の科目をすべて履修していること。		1 学年の学期区分	2期
イ. 卒業基準検定を取得していること。 ウ. 学年の出席率が90%以上であること。 エ. 各授業科目の授業回数の3分の2以上出席し、Cランク以上の評価を取得する。		1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。